

月轉松陰暗半廊風
簾小解響丁當竹林
蒲簾安身坐消受南
軒一夜涼 初秋夜坐
述齋林銜

1



2



3

1797年、 江戸の文化人 大集合！

—佐藤一斎収集書画の世界—

平成28年 10月10日|月|～12月10日|土|

前期:10月10日|月|～11月12日|土|、後期:11月15日|火|～12月10日|土|

東京初公開

会場 実践女子大学香雪記念資料館 企画展示室1・2
主催 実践女子大学香雪記念資料館
開館時間 10:00～17:00
休館日 日曜日、11月14日(月)(展示替えのため)
入館料 無料

実践女子大学香雪記念資料館
東京都渋谷区東1-1-49 ☎03-6450-6805
<http://www.jissen.ac.jp/kosetsu/>



- 4
1. 林述齋 書 七言絶句「初秋夜坐」
 2. 岡岷山 筆 「竜胆に蝶図」
 3. 谷文晁 筆 「山水図」
 4. 谷舜英 筆 「石榴図」(部分)

※すべて《名流清寄》寛政9年(1797)、個人蔵・恵那市岩村歴史資料館寄託 より

香雪記念資料館では、実践女子大学の学祖・下田歌子関係資料の展示とともに、女性の文化活動、特に絵画制作活動を顕彰し、研究・展示を重ねて参りました。今回の企画展では、下田歌子と同郷の偉人・佐藤一斎(1772-1859)が収集した書画を二巻にまとめた《名流清寄》(個人蔵、恵那市岩村歴史資料館寄託)を中心とした展示を行います。

《名流清寄》には、そうそうたる顔ぶれの男性に交じて、3人の女性が絵画を寄せているのも注目されます。《名流清寄》が生み出された寛政9年(1797)頃の江戸では、文化人同士の交流がいつそう活発化してきました。佐藤一斎を取り巻く多彩な顔ぶれを表す《名流清寄》からは、そうした当時の都市文化隆盛の一端を読み取ることができます。このたび東京初公開となる《名流清寄》の世界を、どうかお楽しみ下さい。



伝椿椿山筆、佐藤一斎 賛《佐藤一斎像》
安政2年(1855) 恵那市岩村歴史資料館蔵
岐阜県指定重要文化財

1797年、 江戸の文化人 大集合！ —佐藤一斎収集書画の世界—



金子金陵 筆「蛙図」



司馬江漢 筆「水辺風景」



橘千蔭 筆「墨竹図」

※上記3点は《名流清寄》寛政9年(1797)、個人蔵・恵那市岩村歴史資料館寄託 より



実践女子大学香雪記念資料館

東京都渋谷区東1-1-49 ☎03-6450-6805
http://www.jissen.ac.jp/kosetsu/

ACCESS

JR/東京メトロ/東急/京王「渋谷駅」東口から徒歩約10分
東京メトロ「表参道駅」B1出口から徒歩約12分

関連企画 ※いずれも聴講無料、事前申込不要

特別講演会「儒学者佐藤一斎の家族愛」

講師：鈴木隆一氏（佐藤一斎顕彰会会長・NPO法人いわむら一斎塾理事長）

10月15日(土) 14:00- (60分程度) 実践女子大学渋谷キャンパス501教室

担当学芸員によるギャラリートーク ※計4回

前期 10月28日(金) 17:30- / 11月12日(土) 14:00-

後期 11月26日(土) 14:00- / 12月2日(金) 17:30-

《名流清寄》主な作者一覧

佐藤一斎	植村家長	岡岷山	吉田直躬	佐野東洲
杉浦吉統(西涯)	清水曲河	脇田赤峰	谷舜英	関克明
林述斎	柴野栗山	鎬木梅溪	関其寧	田中香雪
松平頼救	谷文晁	服部元立	金子金陵	片岡如蘭
増山正賢(雪斎)	尾藤二洲	龍洲親孝	春木南湖	堀田正毅
市橋長昭	谷(島田)元旦	北山寒巖	市河寛斎	橘千蔭
阿部正精(蕉亭)	樺島石梁	桂川甫周	村山芝場	大原爽鳩
朽木倫綱	宋紫山	河田礪溪	間中浄復	司馬江漢
渡辺玄対	中村仙庵	中井董堂	林(谷)幹々	鈴木芙蓉
松平乗友	平井澹所	清水天民	古屋昔陽	沼尻修平
松浦清(静山)	横田汝圭	市河米庵	広瀬臺山	など
脇坂安董	井上四明	喜多武清	篠本竹堂	
董九如	大田 南畝	杉浦靖斎	山崎董烈	